

## 第1回甲斐市総合教育会議議事録

- 1 日 時 平成28年11月1日（火）午後3時30分
- 2 場 所 甲斐市役所 新館2階 教育委員会会議室
- 3 開 会 午後3時30分
- 4 出席者 保坂武市長、西山豊教育長  
清水學職務代理人、長田明美委員  
新海宏子委員、柳本博美委員
- 5 欠席者 なし
- 6 傍聴人 なし
- 7 事務局 生山教育部長、望月映樹教育総務課長  
内藤和彦学校教育課長、坂本公彦学校教育指導監  
久保欽一教育総務係長、河野晴美教育総務係員
- 8 市長あいさつ
- 9 教育長あいさつ
- 10 議題
  - (1) 学校訪問を終えての意見交換
  - (2) 全国学力学習状況調査結果について
- 11 その他
- 12 閉 会 午後4時50分

○開 会

事務局 開会を宣する。

○市長あいさつ

市 長 みなさん、こんにちは。

この総合教育会議は、首長と教育委員会で意思疎通を図り、教育施策の方向性を共有し、連携して教育行政を推進するため、平成27年4月1日に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」で義務付けられたた会議であります。

甲斐市では、法改正と併せて平成27年4月から新教育長を任命いたしました。また、本年度からは元校長の西山教育長の任命と併せ、学校教育課長も現職の校長を配置いたしました。

今後は、学校現場を熟知している経験者がリーダーシップを発揮し、多岐にわたる教育課題に対応していくものと期待しております。

今回、清水學委員が11月2日をもって2期8年の教育委員の任期を終えます。

清水委員におかれましては平成23年11月から約1年、甲斐市教育委員会委員長を務め、委員長就任中に山梨県市町村教育委員会連合会会長を歴任され、県下教育委員会の長として教育行政の充実に寄与されました。

今後ともご助言等いただくこともあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

大変ご苦勞様でした。

また、後任の教育委員には元敷島中校長の中込正久氏が就任し、11月4日に任命式を行う予定となっておりますので、よろしくお願いいたします。

さて、創甲斐教育の施策のひとつに、健康でたくましく生きるからだを養う「健やかな体の育成」を掲げており、安易にエアコンに頼りすぎない生活を営むことで、子どもたちの体温調節機能を発達させ、健康な身体をつくり、たくましく育てることが大切であると取り組んで参りました。

一方で、近年の夏場に限らず猛暑が続く異常気象などの傾向を考えると、学習環境の更なる充実策を検討しなければならないということから、本年度は、使用頻度や防音対策の面から市内13小中学校の音楽教室にエアコンを整備したところであります。

さらに、今年度開催された防災リーダー講習会に全日程参加させていただきましたが、各小中学校の教室は、地域住民の指定避難所ともなるので、災害時にも備える面からも、適切な環境整備が必要だと考えたところであります。

これらのことから、安易にエアコンに頼りすぎない生活を営み、子どもたちが丈夫な身体づくりを進める、という従来の方針に変わりはありませんが、災害時等に備える面からも、今後、小中学校のエアコン整備に取り組んでいきたいと考えております。

これには、多額の整備費がかかることもありますが、費用対効果の高い手法を調査研究のうえ、小中学校へ早期に整備し、本市教育環境の更なる充実を図って参ります。

本日はこの後、教育委員の皆様が学校を訪問しての感想をお聞かせいただくとともに、全国学力学習状況調査の結果に基づき意見交換をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

## ○教育長あいさつ

教育長

それでは、平成28年度第1回目の総合教育会議ですので、教育委員会側として、ごあいさつさせていただきます。

市長の行政の方針として、報・連・相を大切に行政が行われておりますので、市長のご配慮を頂く中で市長と教育委員会との情報交換が密であると思っております。また、今日の総合教育会議の機会などを通して、教育についての成果や課題を洗い出し、問題解決に向けての施策や取り組みについて話し合い、より深い教育行政の方向性が見いだせたらと思っております。

「甲斐市で育ち、甲斐市を育てる人づくり」を基本理念とした創甲斐教育の推進に向け、教育委員会も、学校教育、スポーツ振興、図書館や公民館を含む生涯教育など、各部門で努力しております。

三期目の市長就任の話の中にもありましたが、今までの市政の中で、教育を一番大切に考え、力を入れてきたこと、教育委員会として大変うれしく思います。

同時に、創甲斐教育を推進するためのいろいろな支援や協力に対して、大変感謝しております。

今年度39人を配置していただきました教育支援員の数と質に関する理解、協力につきましては、山梨県の他の市町村のどこを見ても誇れるものです。また、いろいろな状況の中でのエアコンの設置のことも、感謝とともに、創甲斐教育の理念をしっかりと生かし、甲斐市に生きる子どもたちを育てていきたいと思っております。

今日は、全国学力学習状況調査結果についても議題にありますが、賢い子を育てるために、いろいろな方途を考え、話し合っていきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

#### ○議題

##### (1) 学校訪問を終えての意見交換

市長 会議の規定で決まっているということで、私が議事進行をさせていただきます。ご協力をお願いします。

学校訪問を終えての意見交換でございますが、教育委員のみなさんから一人ずつ感想を述べていただきたいと思っております。

委員 16校を学校訪問させていただいた中で、感じたことをお話しするとともに、市長に検討していただきたいことがあります。

学校では校長を中心として先生たちが一生懸命努力をして、より良い子どもを育てようと、甲斐市で育ち甲斐市を育てる人づくりということをもとに取り組んでいます。

その中で、障害を持つ子どもの特別支援の教育ということの大切さ、大変さというものをそれぞれの学校で悩み苦しんでいるという背景があるということを感じました。

地域の子どもたちが、支援を受ける子どもをどう受け止めているか。今、文科省で出している制度というものがインクルーシブという体制をとっているということ、インクルーシブとは、すべての子どもたちを障

害が有る無いにかかわらず、学校の中で一緒に学ぶそれが基本だという方法を打ち出してきて、どのような子どももそういう体制で学校に就学していくということが現実であります。

市長にも教育に理解をいただき、エアコンだけではなく、支援員をたくさん採用していただいて、学校ではしっかりと努力をしながら子どもたちを指導しています。

その中で、悩み、苦しみはあり、私が市長に相談したいことの一つとして、障害のある子どもが就学するときの話し合いですが、乳幼児を含めて障害に対して対応するような体制を組んでいただけないかということです。教育委員会だけでなく、例えば保健、福祉とかを含めた組織を作って、相談をしながら、母親、子どもを安心させて指導していく体制を考えていければと思います。そのためには縦割りではなくて、支援するセンターのようなものを作りながら、徐々に甲斐市の教育支援学校を含めた教育のステップアップを図っていければと考えましたので、検討していただきたいと思います。

委員

普通学級の中に所属しているが支援が必要な子どもたちの対応に、先生方がとても苦勞されているということがすべての学校に共通の課題だと感じました。

相談できる場所というのも大切だと思うのですが、例えば、教育委員会と健康増進課が連携をとれればと思います。今、行っている乳児健診の中では、ちょっと目つきがおかしいですねとか、ちょっと首のすわりが遅いですねとか、ハイハイが遅いですねという子どもたちについては、様子を見ましようということで話が終わっているそうです。乳児健診が次のステップになかなか繋がっていかないということです。

乳児健診の中に専門的な知識を持つ理学療法士の同席が可能になり、早い段階で専門的な治療を受ければ、小学校入学時には普通の子どものと同じ程度にきちんと授業が受けられるような指導ができるという話を、甲斐市で理学療法士として活躍している方からお聞きする機会がありました。

親も小学校に入学する時点で言われると、素直に受け止められないということがあります。幼稚園までは元気で活発で、多少落ち着きがな

くても元気ですねと言われてきたのに、入学時に突然、多動ではないですかといわれても親の方もなかなか受け入れられない、やはり乳児健診をもっと活用して、専門の方を入れて早くに発見するということが、小学校の授業においても先生方の負担も少なく円滑に進められるようになるのではないかと思います。

授業の中で、子どもたちが発表をしたり、本の音読をしたりするところも見せていただきました。日本人はプレゼンテーションの力が弱いということで、学校の先生方にも子どもたちの発表の場をたくさん作っていただいているのですが、声が小さかったり、早口だったり、とてもいい意見を言っているのだけれどなかなか聞き取れなかったりということがありました。これからは発表する機会はだんだん増えているので、もう一歩進んでプレゼンテーションの仕方、いかに相手に上手に自分の思いを伝えるかという仕方を教えるような機会をたくさん作っていただきたい、また、親もPTA役員を引き受けてもいいのだけれど、みんなの前で話をするのは嫌だという方も大勢いるので、プレゼンテーションの上手な市長さんとかを講師に招いて、親子で受講できる話し方講座のような機会をたくさんつくっていただけたらと感じました。

## 委員

創甲斐教育の理念ということをよく学校が理解して、またそれを実現化しようとしている姿勢がよくわかりました。その中でもう少し踏み込んでほしいなと思うのが、ボランティア活動です。ボランティアというのは、自発的に任意に行う活動で強制するものではないということにはわかっているのですが、小さい頃からボランティアというものへの意識を目覚めさせて実践的に活動して身に着けていくということは大事だと思います。意識させなければ、ボランティアというものには気持ちが向かないと思います。あまり身構えずに日常的な活動として自然にボランティア活動が出来るような子どもを育てていく必要があると思いました。

これは学校だけではできません。学校の教育課程の中に、時間を作るのも大変ですけど、地域の理解を得ながら外に出て、大人と一緒にやっていくということで、将来地域の中で活躍してみようとか、また地域に

戻ってこようという子どもの意識も育つのではないかと思います。

アメリカでは、ボランティアが義務付けられています。今日は4時間ボランティアをしてきたとかという話を聞きます。アメリカでは日常的に小さい頃からしてきて、日本でも真似できる場所があればさせたいなということで、是非、教育課程の中にボランティアという活動が日常化するようなことができたらと思っております。

特別支援につきましては、人的にも物理的にも経済的にもいっぱいいっぱいのところでは何かできないかなと考えると、邪道かもしれませんが、地域の人を導入したらと思えます。何か力になっていただけませんか、地域の方を巻き込んで意識していただき、出来ることを活動してもらいインクルージョンということも含めて、地域の人にも理解してもらうことで少しは学校の先生の負担も減らせるのかなと思えます。専門的な知識のない人たちに手伝ってもらうのですが、出来ることではないかと、地域の中で知っていただけたということの大切さ、そこから広がるということもあるのではないかと、先生方の負担等を聞く中で思っております。

## 委員

毎年訪問をしていると、学校の現場が変化していることを感じます。校長も職員も変わるのですが、そういう中で、各学校で脈々と流れている伝統あるよさというものが見えてきて、それを継承し、発展させようという意欲を感じます。

それが出来ている一つには、最新の教育課題を教育委員会の指導監、指導主事等が非常に敏感になり、文科省、県教委から出されているものを咀嚼し、わかりやすく学校現場に伝えていることでできているからだと感じています。

特に今年度については16校が共通な課題について取り組んでいこうというものが見えてきているのは、教育委員会の力があり、それが発揮されている証拠ではないかと思います。

その中で、心の教育、たくましい身体づくりという取り組みの成果が見えてきて、他の所では自己肯定感の云々などということを行っています。甲斐市の場合は数年前から取り組みをしており、そこには課長、指導監、指導主事、もちろん教育委員会全体が関わって、素晴らしい方

向に来ているのかなと感じています。指定校制度を作って、研究をして、その良さを各校に広めているということの成果も大きいと思います。

学校訪問とは別の話になりますが、この職についてから、先進地研修があり、小中一貫、小中連携それからコミュニティーについて研究しているところを拝見させていただいているのですが、少し寂しさを感じています。今年、視察したところも地域が消滅しそうで、児童生徒数が減るので、一つになって地域の関心を得てやっていこうということで、コミュニティーについては非常にあるのですが、一貫という部分については、先細りをしていくためにやらざるを得ないような地域環境にあるのかなと感じました。静岡に行ったときは、防災上の問題から一貫にしなければならない施設を作るためにそうしたということで、一貫にするための理由が各校で違うようです。

そこで提案として、小規模の一貫ではなくて、大規模な小中一貫を全国に先駆けて甲斐市で作れないかと思います。3校4校で道徳の研究とか、一貫する取り組みをこれまでもしており、メリット、デメリットについて多少は見えています。魅力ある教育をこれからしていくのに、大規模な小中一貫を検討する要素があるのではないかと感じ、方向はちょっと違うのですが将来的な教育という意味で話をさせていただきました。

教育長

6、7年ぶりに学校を訪問しましたが、小学校にしても中学校にしても、私がいた当時と比べますと学校が落ち着いていると感じました。学校が生きている、わかる授業、心の教育をそれぞれの先生ががんばってしている成果かなと思います。

生徒指導というのは、波があるし、いろいろな課題が、自分たちが見ていないところで学校ごとにあるということを、後で先生たちとの話し合いの中で感じました。

しかし、昔は学校だけで解決しようとしていた問題が、家庭や地域の協力を得て真の意味で開かれてきている、コミュニティーに関する考えが進歩しているとも思いました。

生き生きしている学校というのは、各学年に核になる先生がいて、チームとしてその学年を引っ張っていたり、管理職が方向性を見つけてみ

んなで頑張っていたり、何か要因があるんだなということで、将来を見越した中で学校を作るということを考えていくのも教育委員会の仕事だと感じました。

コミュニティーということに対しては、双葉、また今年は敷島の4校でしていますけど、連携ということが非常に大事だと感じました。学力にも非常に反映してくると思いました。

今年は保育園・小学校・中学校の連携した教育を視察したのですが、これから甲斐市が参考にできることがたくさんあるような気がしました。

甲斐市でも保育園から、小学校の低学年の先生に合唱を見に来て下さいということがありますが、保育園と交流することにより、入学する前に子どもたちのことを理解できます。小学校には、中学校の先生が出前授業に行くこともあり、いくつかの小学校の子どもが一つの中学校に入学するときに、横の連携がとれて、チームとして甲斐市の教育が出来るのではないかと思います。

それが見えてきたのは、今年は、一つの中学校に集まる小学校の単位で、敷島地区なら敷島地区、双葉なら双葉、竜王なら竜王の小学校の先生たちの合同会議をもって横のつながりを持ちました。学校ごとにちぐはぐではなく授業規律を同じようにしよう、連携を取る中で授業規律を確立して行って、中学校に行ったら同じように規律ができること、また、親に家庭学習の要望をして、中学校区の中で宿題の記録帳なども同じにするなど、横のつながりが出てきていいことだなと思いました。それによって、学力を高める実践、発表もありましたけど、そういうことを作っていかねばいけないなと感じました。教員の核を作っていくこと、地域、家庭の協力、一緒になって文教地帯を作っていくことが文化にも体育にもつながっていき、いい方向性が見えたような気がします。

課題は、たくさん乗り越えていかねばならないと思いますが、明るい先が見えてきたような気がします。

市長

ありがとうございました。

それぞれ、16校を見ていただいた、委員のみなさんのご意見をお伺いさせていただいたところです。

総じて、支援が必要な障害者、そして幼児期に発達障害、歩行などの障害の発見を早くしてもらう必要があるのですね。小学生に多く見られるということですね。保育園、幼稚園においても、親は正しいと思っているので、早く発見して親御さんの相談に乗ってあげるように言うてはいるけど、保育士も言いにくいという感じはします。

お母さんも若いので発見できない機会が多いのかなとも思います。

また、ご指摘があったように、小中一貫また保育園、幼稚園なども含めて、ともに理解し合って成長させるということも、特色をもってする必要があるというご指摘も受けたので、創甲斐教育の中で反映できればと思います。

これからも気が付いたことをお話していただき、お伝えいただきたいと思います。

8 保育園のうち2 保育園を民間委託し、松島保育園も民設民営にしていくということですが、保育士が足りない状況です。未満時の数が多くて0歳は3人の子どもに1人の保育士ということで、今年から急に足りなくなっていました。現在も探している状況です。かつては3歳くらいまでは家庭でというのが多く、家庭で見る方が親子のつながりが持てていいという時代がありましたが、今は保育園等に預けることが多いです。また甲斐市は臨時職員が多く、待遇の面でも甲斐市は弱いところがあり、他の園に行ってしまうということがあります、来年度からは給与面も見直さなければならない状況になっています。

保育士も子どもの面倒を見るのが大変です。学校の先生も一緒ですが、気が付いたことを言うていただいて少しでも実現していかなければならないと思います。

これからの委員会の活動の中で、また肉付けしてご意見をいただければと思います。

創甲斐教育は、私が始めました。市長就任時、県の教育長にあいさつをしたとき、甲斐市は不登校の割合が一番多いと言われて、また、山梨県は日本一多いと言われ驚きました。47都道府県のうち不登校児が一番多いと聞いて考えたのが、あまり難しいことは言わ

ないで、小中学校を卒業するときは、字が上手で、話が出来て、健康にということからプールで25メートル泳げるようになって学校を卒業させてあげるように、この3つをしてくれという話をしました。プールは25メートル泳げなくても、長く沈んでいられるとか、水に親しむことは健康につながります。

また、保育園でも年長さんには字を書く機会を与え、正しい書き順を教えるということ、また、足し算引き算についても、10本の指の範疇での計算くらいをできるようにしてほしいと思います

## (2) 全国学力学習状況調査結果について

市長 次に、全国学力学習状況調査結果について、担当から説明をお願いします。

事務局 (資料説明)

市長 説明が終わりましたが、質問、意見等ありますか。

委員 各学校別の分析が24ページからありますが、その中で、傾向と対策、今後の取組ということがあります。この学年で出た問題に対して結果が出て対策をするのですが、その対策が2学期からの学習に活かせるのかという問題です。来年度の一つ下の子どもたちが学習をするということになれば、傾向を見ていけるのだけれど、現学年の子どもたちに対してどう対策を練っていくのかということがあります。それをどう活かすのかがその後の子どもたちの学習の定着につながると思います。その辺はどのように学校が取り組むのか、もしわかれば教えてください。

事務局 24ページからのA問題の傾向と対策については5月末には出て、すぐに取り組みが始まったものです。A問題では、例えば漢字についてはあまり良くなかったのですが、漢字の書き取りをていねいにするとか、学習がすでに終わった内容ではあるものの漢字を繰り返し勉強するというものに向けて、すぐに結果を出し、取り組みが出来るようにしています。

学力テストが行われるのはいつも同じ時期なのですが、県内ですぐにA問題の調査、自己採点をして傾向と対策をしたのは甲斐市と限

られた市町村で、積極的に各校が取り組んでいたと思います。

2学期以降の取り組みにつきましても、各学校で来年の6年生にというよりも今の6年生に向けて、算数のB問題が弱く、覚えること、理解力が難しいということがあった時に、それへの対応ということで取り組みを行ったということがあります。どれくらい効果があるかは難しいとは思いますが。

事務局

学校には、採点をすぐにするによって、自分たちの学校の弱点をまず見ていきましょう、それからさらに進んで6年生のテストだからとか中間テストだからというのではなくて、自分たちの指導がどうだったのかというところを振り返ってくださいということをお願いしました。そんなに早くするのかという意見も一部にありましたけど、こういう資料を作成することにより改めて実感し、もう一度振り返ってもらおうということになると思います。

委員

学校では授業以外の朝の学習とかで、振り返りの学習でやってみようという学校もあるし、様々な取り組みがあつていいと思うのですが、その中で成果をあげた結果を披露できる場があると、また一つの大きな刺激になり、平均値との格差があるところは上位の方へ、さらにそこを超えていけるような結果になっていくと思います。

こういう具体的な取り組みを見せてもらおうと、ここの学校ではこういうことを考えてあげようとか思うので、特に小学校の段階での学習の理解度がそのまま中学校につながっていくので、この6年間の定着というのは大事で、その繰り返しで情報量が多いと中学の学習へ活かしていける気がします。中学になると学習してきたことを活用する場面がもっと多くなるので、そういうものへつなげるようなかたちでこれからもやっていければと思います。一つ一つ進歩しているので、大きく飛躍できる可能性を持っていて、取り組み、分析もしっかりしているのを裏付けられるので力強く感じました。

教育長

大きく、大ざっぱに見ていくと学校の取り組みにも差が出ています。わかる授業をみんなで行おう、テストのある学年だけではなくてすべての学年で同じように学力を高める授業づくりをしている学校とか、家庭教育、宿題に対して具体的な取り組みをしている学校とか、もう

一つは地域によっても要素があるような気がします。

家庭教育力、地域教育力が高いところはよく見ていくと高いですね。何ができるか、やはり横のつながりを作っていかなければいけないという気がします。

委員

そういう取り組みをしていくことによって小中の連携が密になっていくし、効果を上げる要素の一つで、それが研究的なことにも使える。先生方の意識が一枚岩になって取り組んで行こうという学校が多くなって、すべての学校がこういう気持ちで取り組んでいる成果が表れてきていると思います。

委員

中学3年生を見ますと、1校の成績がいい、あと4校は少し全国平均を下回っているという結果ですけど、先生方が一生懸命やってもこうなるということ、そうなりますと成績の低い根源は何なのでしょう。

事務局

これだという要因は無いのですが、私たちが持っている数値だと要保護・準要保護世帯の割合がこの成績に比例しているということは一つあります。あと、小学校の時代にどのような学習をしたかということが、中学校にも影響してくるということもありますし、もちろん一生懸命していますが教職員の指導力ということもあります。いろいろな要素がかみ合っているのかなと思います。私たちができることは教職員に甲斐市の子どもたちに豊かな学びを提供していくよう指導助言していくことだと思っています。

委員

去年の結果を見るとまたこれとは違いますよね。

教育長

通して見ていくと、今年の場合は平成25年の小学6年生が平成28年の中学3年生ということで、初めて同じ子どもが受けたんですよね。中学校の伸び率の方が低いんですよ。

委員

そういうことが分析できるので、どう取り組むかということも考えられます。

委員

先生たちの意識というものがどういう意識なのかという、逆に子どもたちは一生懸命やっているんだけどこういう結果で残念だということだけなのか、さらにこういうことをしなければこれに力をいれなければならないという意識に結びつけるのかどうか、調査によってど

う解釈するかといことはどうですか。

委員

ここで、1つの中学校がこれだけの成果を修めたという背景には、何年か前から県の指定を受けて授業改善を行ってきたということがあり、こうしたらどうかと各学校に提案することができます。そうすると何年か先には格差が無くなる、それが横、縦のつながりの中で理解し取り組んでもらうというところに行くので、ここからは、学校教育課長、指導監、指導主事が、各学校を訪問しながら伝えていくということになるかと思います。

そういう意味で長い時間はかかるけれど、この中学校には成果がでているのかなと思います。

事務局

ここ数年、教師力向上の講座を指導監が中心に作って、ただ教科の指導だけではなく、学級が学ぶという集団ということが大事ということで、今年も小学校、中学校も、学級づくりの実践をしている先生たちと一緒にグループ活動をしながら教えをもらったり、全国の先進的な事例をもつ先生を招いたりとか、参加しやすい3時半から5時半くらいまで講座を開きましたが、少しずつしてきたことがプラスになったような気がします。次の手もいろいろ考えながらですが、そうはいつでも教師にやらされ感が強くなってもいけませんので、バランスよく考えていきたいなと思っています。

委員

先生方のフォローをするわけではないですけど、この成績の評価が、学校評価、教師評価にまでつながっていくようなことがないようだと思います。先生方のやる気がそがれたり、こんなにやっているのにどうしてだろうという気持ちになったりしないよう、その学校が置かれている地域や家庭の教育力とか貧困度とか、そこまでとらえてあげないとかわいそうだな、これだけで追い込むのはよくないと思います。

委員

IC機器との関連というのはないでしょうか。機器を利用した学習成果との結びつきですが、情報機器を使った学習をしている双葉東小と竜王小は子どもの授業への食いつきがいいような気がします。

市長

ありがとうございます。

また、時間をいただきまして、質疑、意見交換をしたいと思います。

今日は貴重なご意見をいただきありがとうございました。

○その他

事務局

その他ということで、委員のみなさまから何かありますか。  
よろしいでしょうか。

一 同

異議なし

事務局

次回の総合教育会議ですけど、来年2月くらいを予定しております  
ので、よろしくお願ひします。

○閉 会

事務局

閉会を宣する。

閉会時間 午後4時50分